平成２８年１１月１１日

議会選挙の改正案に対する意見

東京都・中野区議会議員
加藤たくま

各級地方自治体の選挙に対する改正案に対して、私見を以下に認める。

【全体】

国民の政治への関心を向上させるために死票を減らす、マイノリティの意見が反映される制度になることは大いに歓迎すべきことではあるが、二元代表制である地方議会において一番重要な議員の仕事は行政の監視である。

本改正案は若者・マイノリティの政治参画を促し、広く多くの意見を反映することが可能であるが、議会に議員が意見を入れば行政に反映されるものではない。

結局は多数決で決まる民主主義の根本的な制度を維持する限りは、過半数の同志を集め議案を成立させる必要があり、通常は会派が集い、過半数にする。

例えばマイノリティの例として LGBT に関して、積極的に条例改正をしようと一人の議員が頑張ったところでほかの議員の賛同しなければ何も前進しない。

議会に新風を巻き起こすことは非常にいいことが、そう簡単に政策が進むことはない。

あまりにもそこに力点を置きすぎると行政の監視が果たして、しっかりできるのかという懸念が生まれる。

おそらく、同改正案に急に変更された場合、年長議員が軒並み落選し、議会運営がわからない議員ばかりになり、結果的に行政のいいなりとなるしかない議員が増加、行政のやりたい放題となり、二元代表制の維持が困難になりかねない。

総合的に考えて、同改正案の数字の妥当性や段階的な処置というものを検討する必要があると考える。

（議員の視点から）無風選挙と見られがちだが、立候補者は人生をかけて立つわけあり、システムの批判から簡単に議員自体の資質などまで批判が拡大するような表現は控えていただきたい。

【都道府県議員】

参議院議員選挙の非拘束名簿式は全国の業界団体の声が届く制度となっており、医師会、歯科医師会、土木業界などいわゆる族議員を当選させるシステムである。

それはそれで多くの声があるわけなので必要な制度である。

実際、参議院議員選挙は選挙区も存在するわけで業界・地域の声両方を聞き入れるシステムになっている。

東京を例にとれば、政治・選挙活動は東京都全体におよぶことになり、業界以外から直接有権者の声

を聴くことが困難になると思われる。
　現況のシステムであると、自分の選挙区である基礎自治体のあらゆる団体と通じ、総合的にものを判断される議員が多いように思えるが、同改正案では業界に寄った族議員の政治家が増加する。
　そうなると特定の地域から代表者を出せなくなる可能性がある。
　例えば多摩・島嶼地域から誰も当選しなくなることになれば、どこの政党であるかなどの問題どころではなく、その地域から議員自体がいなくなる可能性もありえる
　改正をするのであれば、ブロック程度の中選挙区案が必要であると考える。

【市区町村議員】
　党所属の方は基礎自治体内を同じ党内でエリア、縄張りを敷いて活動をしている。
　それは一人一票しかない票をうまく同じ党で分割する方法ではあるが、各議員は、そのエリアの町会などと密接的な関係を構築している。
　当選した議員はもちろんその地域の代表として活動し、地域に恩返しをする。
　もし同改正案となれば、各議員は自身の担当エリア以外にも顔を出す必要があるという発想になり、議員として政策立案を考える暇もなく、地域周りをし続けることになりかねない。
　また地域周りには体力・金銭が必要になることから、政治家としての資質とは違うことで判断されるような事態になりかねない。
　お金がある人が当選するというのは絶対にさけなければならない
　地域拡大をするがゆえに、地域の声を拾いきれない可能性も出てくる。
　３人投票できるのであれば、せめて１位が３票分、２位が２票分、３位が１票分などの重みがなければ、無駄に活動地域を広げ、政治家の質を下げることになる。

【まとめ】
　死票をなくし、投票率を上げることは国民が地方自治に対して政治参画するために大きな意義がある。
　しかし、そのために市区町村単位、さらにはそれよりも小さい区域の声が反映されにくくなることは避けていただきたいと考える。

【追記】
　インターネットでポピュリズム的な発言をし続け当選する人もいれば、投票者の顔が見えているような人もいるので一票の重みの感じ方は違います。前者の人から言えば、こんな自分に投票する区民は馬鹿だな的な発言を議会において、したこともあります。私は後者ですので、僕に対して大事な一票を入れてくれた人たちに恩返しをしたいと考える日々です。馬鹿だな的な発言を聞いて、悔しくて涙しました。ポピュリズムを発言する人たちが簡単に議会に入れるような制度には絶対にしたくないのでご留意していただければと思います。反対するのは簡単です、まともな代案を出せる人が受かる選挙。政策通が受かる選挙にしてもらいたいと思います。